2007/5/17(Takada)

（報告）新経済社会学・ポラニー・埋め込み理論

１．アメリカの新経済社会学

1950 年代　新古典派経済学の純粋経済学としての完成

アロー・ドブリューによる一般均衡理論の完成

パーソンズが独自の学としての経済社会学（構造的機能主義）

市場均衡分析としての経済学と社会関係分析としての社会学の分離

労働市場　労使関係　社会関係の統合性

19７0 年代～80 年代　経済社会学活発化の背景

①経済問題の顕在化（スタグフレーション、低成長、失業問題）フォーディズムの終焉

②経済成長と社会制度、社会構造の関係への関心（アジアの経済的成功その他）

③世界経済の構造変化　市場型経済へのシフト　移行経済の資本主義化の試み

市場経済の存続・機能の前提条件の究明

④経済学の社会学分野への進出(新制度学派)とそれに対する社会学陣営の反撃

Beckert,J.，2007，p.6　その他、アロー論文（1973）規範、価値、信頼の重要性

1980 年代後半　新経済社会学の勃興

この勃興は、ネットワーク分析(Harrison White)と新制度派的組織論(Charles Perrow)の発展を踏まえている。M. Granovetter, M.Schwartz をリーダーとする SUNY Stony Brook 派が多くの次世代研究者(Mintz, Mizuruchi,Stearns)を生み出した。

この際、新制度派的組織論は従来の組織内問題や官僚組織論よりも、組織間関係や経済組織の多様性をめぐる問題に関心を集中した。

1980 年代に急激に増加・拡大したビジネススクールが、多数の経済社会学者を積極的に採用した。

経済社会学復活の最大の契機　グラノヴェッター「経済活動と社会構造：埋め込み問題」(1985)

主たる批判の対象は新古典派よりも、新制度学派（ウィリアムソン）

「経済活動（行動）は社会関係の構造の中に埋め込まれている」

「新古典派の経済主体は社会から過度に抽象（原子化）されている（方法論的個人主義)。他方、従来の社会学の人間は過度に社会化されている（社会的規範・価値が個人に内在化されてその行動を決定するという理論)。これら両極端の中間の主体概念にも

とづく社会・経済現象の考察が必要」「経済学も社会学も個人を社会的コンテクストのなかで考察していない」(485)

「埋め込み理論は、具体的な人間関係とそれら人間関係の構造あるいはネットワークが経済主体の間に信頼を産み出し、問題行動を抑制する役割を果たしていることを重視する」

「ウィリアムソンの市場とハイエラーキー論は、社会関係の凝集性を説明できない。・・・新制度学派の目標は、制度を社会的・歴史的・法的関係から切り離して、単に経済問題の効率性実現のための手段として説明することである。・・・・経験的事実が示すところでは、市場には複雑な取引を処理する高度の秩序が成立しており、他方、企業の中にも重大な無秩序が見られる。これらの現象が見られる理由は、組織形態よりも人間関係の構造あるいはネットワークの性質に関係している。」

「埋め込み理論を適用することによって経済社会学は経済現象の説明に有効性を発揮できるし、むしろその役割を果たすことを強く求められている。われわれは、経済活動を社会活動の重要ではあるが特殊な範疇として考察したウェーバー以来の社会学の伝統に立ち返る必要がある」507

埋め込み理論をめぐる研究

Granovetter,M.1985, Economic Action and Social Structure: The Problem of Embeddedness, *American J. of Sociology*, 91, 481-510

------2000, A Theoretical Agenda for Economic Sociology, working paper, Center for Culture, Organizations and Politics, US. Berkeley.

------ 2005, The Impact of Social Structure on Economic Outcome, *J. of Economic Perspectives*, (19) 33-50.

Granovetter のポラニー解釈、埋め込み理論に対する批判的考察

Zukin & DiMaggio(eds), 1990, *Structure of Capital: The Social Organization of the Economy*, Cambridge UP. (埋め込みの 4 概念を分類)

Beckert,J., 2007, The Great Transformation of Embeddedness: Karl Polanyi and the New Economic Sociology, MPIFG discussion paper.

Krippner, G.R., 2001, The Elusive Market: Embeddedness and the Paradigm of Economic Sociology, *Theory and Society*, (30) 775-810.

現代アメリカの経済社会学者によるポラニーをめぐるシンポジューム

Polanyi Symposium : A Conversation on Embeddedness,2004, *Socio-Economic Review*, (2)109-135.

その他、Silver,B & Arrighi,G., 2003, Polanyi's Double Movement, *Politics and Society*, (31) 325-55.

経済社会学における「埋め込み理論」の批判

Ｇ．クリップナーの批判

「市場が社会に埋め込まれているという言説は、経済社会学が市場それ自体を分析することから関心をそらせてきた。新古典派もパーソンズ派も、社会が本質的に分離されたさまざまな分野から構成され、それぞれの分野は別の科学によって説明されなければならないという社会についてのモザイク的な理解をベースにしている。この理解が、経済＝市場と社会を別の領域として分離して考察するアプローチ、すなわち、市場それ自体は複雑な社会関係を構成していないかのような理解、を産み出した。しかし、全ての取引は、それがいかにその場限りのものであっても、広い意味で社会的である。全ての市場行動は、既存の国家、文化、政治が決定する一定の社会的ルールのもとで行われる。」

「市場は無差別で原子的な生産者が出会う透明な空間ではなく、政治、文化、イデオロギーが複雑に絡み合って作り出すまったく社会的な制度である」

「埋め込み理論を援用するネットワーク論(Baker, Burt その他)は、新古典派におとらず抽象的である。ネットワークは社会に不偏的に見られる関係であり、社会関係の一面であり、それ自体からは人間の社会的行動を説明する十分な情報は生まれない。」

「経済社会学は、市場それ自体を社会的対象として把握しなければならない。さもなければ、市場を（経済学と同様に）社会から切り離して考察するか、逆に市場を社会に解消するか、いずれかの結果から免れることはできない」

ベッカートの批判

「新経済社会学は、資本主義経済の社会的前提条件、およびその中枢制度としての市場に関する包括的な研究を怠ってきた。グラノヴェッターの論文は、経済社会学がこの空白分野を取り上げる大きな契機を与えた」

「グラノヴェッターがポラニーから援用した埋め込み概念は、市場と社会の具体的な絡み合いを全体的に研究する方向ではなく、ネットワークおよびそのパターン論に著しく偏った方向に導いた。それは同時に、ポラニーの埋め込み概念の内容を大きく変質させた。」

「ポラニーの埋め込み理論は、本来は経済取引に内在する三つの調整問題――価値、競争，協力――がなぜ発生し、いかに解決されるかという問題を社会的諸制度に関係付けて説明する理論である。新経済社会学は、社会活動ではなくネットワークの構造を説明変数にすることによって、それらの構造やネットワークがなぜそのような形で形成されたのかを説明しない理論を生み出した。」

「ポラニーによれば、土地、労働、貨幣の三つの擬制商品に依拠して自己調整的な市場制度を作り出そうとする試みは、社会関係の非人間化を引き起こし、社会的・政治的不安定性の原因を作り出した。経済社会学は埋め込み理論の援用によってこれらの問題を抽象的に把握してきたが、重要なことは埋め込み理論を適用することによって

解決可能な、具体的な問題を特定することである」
「新古典派の完全市場の仮説を放棄した場合、安定的な市場が成立するために必要な前提条件は何かという問題を考えると、三つの調整問題（あるいは、正当性の問題を4つ目として付け加えるべきかもしれない）が浮上してくる。」
「ヴェブレンの「顕示的消費」論がすでに解明したように、財・サービスの価値評価はその性格上社会的である。・・・価値評価プロセスは、社会学、歴史学、人類学的知見が適用される分野である。」
「経済学は完全な市場を仮定するが、利潤は市場の不完全性から発生するという命題（ナイト、ロビンソン他）は経済学のパラドックスである。生産者は市場における純粋な競争を回避するためにあらゆる方策を求めてきた。この点で国家はグランド・ルールを設定するという重要な役割を果たしてきたのであり、ネットワークの形成もこの目的のためのメカニズムの一つとみなされる。これらのメカニズムなしに市場は成立しえない。」
「情報の非対称性は取引関係に固有のリスクをもたらす。この問題を解決するために、社会的ネットワーク、顧客関係、評判、フォーマルな保証やブランド、信頼、規範、権力、その他の仕組みが利用されてきた。この情報の非対称性をめぐる問題がもっとも深刻な分野の一つは金融市場である。」
「〈埋め込み〉は、経済社会学がこれらの調整問題を分析する方法ではなく、現実の経済関係のなかで行為者が直面する調整問題を解決するのを助ける社会的条件を反映している。・・・このことは、これらの問題がなぜ方法論的個人主義を基礎にしては分析できないのかということを示している。」
「市場経済の研究を前進させるために、社会学、歴史学、人類学がいずれの分野においても理論的・経験的研究の射程を拡大することが必要である。

①三つの調整問題のそれぞれが歴史的にどのように解決されてきたのか、という問題を体系的に研究すること
②代替可能な解決の集合を明らかにし、研究すること
③贈与、互恵などの（ポラニーが取り上げたが）これまであまり関心をもたれなかった幾つかの概念の活用を考えること

さらに、現代社会研究の特殊な課題
埋め込み理論は現代資本主義と歴史的な社会形態の連続性を浮き立たせるが、それ自体は、現代資本主義の特殊性を説明しない。現代資本主義の歴史的発展が、それ以前の社会形態のもとでの調整問題の解決方式を解体し、新しい解決方式（制度）を登場させるプロセスの分析が必要。〈信頼関係の基盤のフォーマライゼーション〉

〈埋め込み理論〉と〈二重の運動論〉の関係

ポラニーの言説は現代の経済学、社会学、政治学などの分野に大きな影響を及ぼしているが、それらの影響を産み出してきた重要な概念が〈埋め込み理論〉と〈二重の運動論〉である。

このうち、〈埋め込み理論〉は、ポラニーの経済関係についての認識の重要な方法を示す概念であるが、〈埋め込み〉という概念自体は、ポラニーは立ち入って説明していないし、私用している箇所も二箇所にとどまっている。

にもかかわらず、〈埋め込み理論〉が大きく注目されるようになったのはグラノヴェッター（1985）である。この論文は、アメリカの経済社会学が新制度学派の対抗理論として発展する足がかりを与え、その後多くの社会学者による応用的研究を産み出す契機となった。

しかし、同時に、ポラニーの社会認識の不正確で一面的な理解を広め、経済社会学のアプローチをネットワークとその構造という社会の一面に集中させ、市場と経済関係を総合的に分析することを妨げてきた。最近では、グラノヴェッター自身が、この概念の科学的有効性について懐疑的な発言をしている。(ポラニー・シンポジューム 2004)

〈埋め込み理論〉については、ポラニー自身の言説の中でのこの概念の意味、さらには、ルーマンのネットワーク論との差異などの論点が残されている。

他方、〈二重の運動論〉は主として歴史分析の分野で重要な視点を提供し、比較制度研究、途上国問題、環境問題などの研究に重要な貢献をなしてきた。とりわけ、新自由主義ないし市場原理主義に対する批判に有効な理論的視点を与えてきた。

〈二重の運動論〉を正しく理解するためには、ポラニー自身のいうところの〈埋め込み〉概念の意味を正しく理解する必要がある。〈埋め込み理論〉は、〈二重の運動論〉の不可欠の論理的構成部分をなしている。